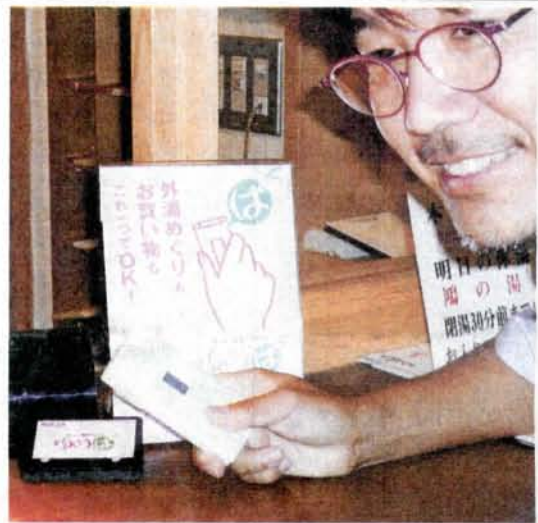


お財布なしで 外湯めぐり



城崎温泉 I-Tシステム定着

日本有数の温泉地とされる城崎温泉（兵庫県豊岡市）で、現金代わりに携帯電話やバーコードを持ち歩くことで、外湯めぐりや買い物を楽しむ情報技術（I-T）システムが活躍している。同システムは経済産業省が所管する産業技術総合研究所が、地元とタッグを組んで開発し、約1年前に導入。その利便性が温泉客の消費行動を促し、順調な成果を挙げているという。

携帯でぱっと決済

システムは産総研サービス工学研究センター（東京）の山本吉伸主任研究員らが開発した『ゆめば』。宿

泊客はチェックインする旅館で、電子マネーの機能が付いた携帯電話を機器にかざすか、または発券されるバーコードを受け取る。城崎温泉には「地蔵湯」など7つの外湯があり、入湯料金は600円と800円だが、翌日のチェックアウト時間（午前10時）までは、携帯電話やバーコードを読み取り機にかざせば何度でも入湯が可能になる。また、入浴後に飲食したり、買い物をする際も、ゆめばの加盟店（35店）であれば、携帯電話やバーコードで決済ができ、翌日のチェックアウトの際に精算される仕組みだ。

- ④電子マネー機能付き携帯をかざすだけで買い物などの決済ができる「ゆめば」
 - ⑤首から下げたバーコードでも決済が可能だ
- 兵庫県豊岡市の城崎温泉（巽尚之撮影）

つけ払い請求簡単に

そもそも、ゆめばの導入前には、浴衣姿で外湯めぐりをする際に財布を持ち歩く宿泊客が少なく、「冷たい飲み物がほしくなるといちいち旅館に財布を取りに戻らなくてはならない」という声が寄せられていた。さらに、城崎温泉ではスナックなどの飲食店でつけ払いする習慣があり、飲食店側は顧客の浴衣の柄で宿泊旅館を特定し、顧客が翌朝チェックアウトをするまでに請求書を旅館に届ける慣行になっていた。

山本研究員らはこうした地元の事情を理解したうえで、I-T化により問題点が一気に解決できると判断。地元旅館「山本屋」の高宮浩之専務をリーダーにプロジェクトチームを発足させ、協力旅館を募って、平成21年10月から2度にわたってI-T化実験を開始した。

これをヒントに山本研究員は、外湯に行列ができる繁忙期を想定し、バーコードなどが1秒以下で認識できる▽サーバーとやり取りし正確に料金が精算できる—の2系統を開発。昨年10月に本格導入した。

城崎温泉に夫婦で訪れた大森健作さん（75）＝兵庫県三田市＝は首から下げたバーコードを目にし「これでアイスクリームが買えるなら随分と具合がいいですね」と話した。